カレッジ情報誌７月号、９月号に『ボランティアの心』として掲載された、第３回西阪順三さん、第４回中沢保夫さんを紹介いたします。

生環で学んだ経験を生かす

西阪　順三（生環８期生）

「ゴミの６分別がよく判ったので、お母さんにも教えてあげる」「いい勉強をさせてもらった。近所の奥さん方も誘えばよかった」。

こうべ環境未来館（西区）を訪れる小・中学校や自治会、婦人会の皆さんからこんな感想を聞くたびに“ボランティアを続けていてよかった”と、至福を感じながら活動しています。

環境未来館は、市民の皆さんに増え続ける家庭ごみを減らすにはどうしたらよいかを考えてもらう施設です。隣接する資源リサイクルセンターでは、全市から集められたカン・ビン・ペットボトルが、大型機械で仕分けされる状況が見学でき、小学生にも判りやすいようになっています。

私がやっているコーディネーターの仕事は、会館の管理運営のほか、館内の案内と展示物の説明が主ですが、団体客があればビデオで地球環境の現状や神戸市のゴミ事情などの解説もしています。見学者の疑問・質問に答えるのも大事な仕事です。Ｔシャツを見せて「これはペットボトルで作られたものです。１枚作るのにボトルは何本いると思いますか」 といった問題や、ゴミの６分別クイズを出して、環境へ興味を持ってもらうよう工夫しています。

私がコーディネーターを志したきっかけは、カレッジで学んだ環境問題がすぐに生かされると思ったのと、少しでも社会のために役立ちたいと考えたからです。わずか月に 2～3 日の勤めですが、生きがいを感じながら頑張っています。

リサイクルＴシャツのアートが皆さんをお出迎えします

神戸市では 5 月に G8 環境大臣会合が開かれてから、市民の環境への問題への関心は高く、環境未来館には連日 2～3 団体が訪れ、賑わっています。在校生の皆さんも一度見学にお越し下さい。

小学生の勉強をお手伝い

中沢　保夫（音文９期）

シルバーカレッジ 3 年生になった年、ボランティアを実践するきっかけ作りのため地域交流活動が始まりました。

私は「小学生の勉強をお手伝いしませんか」との声をうけ、同級生の西田さん・仲井さん・堺さんと 4 名で櫨谷小学校へ校長先生を訪ね、何をすればよいかと聞きました。先生は「これを契機にチャレンジタイムという時間を新たに設け、3･4 年生の計算力アップを目指したい。子どもは算数で自信がつくと他の教科でもやる気をおこすでしょう」といわれました。

具体的には、10 分間位でできるドリルと取り組みその場で採点、合っていれば「百点だ、よくやった」とか、声を出して「九九をやろう」「この数字は 6 か 0 か分かりにくいので、きちっと書こう」「桁を揃えて」などのアドバイスを続けます。

暫く経つと、子どもたちの目が輝き始めました。私達は何物にもかえがたい感動を覚えるようになりました。一学期が過ぎた頃、担任の先生から子どもが目にみえて計算が正確に早くできるようになったと聞きました。

このような話が動機となりグループ わ の一事業として志を同じくする人たちが集まり、事務局や教育委員会と連携して全市的な活動に広まっていきました。現在メンバーは 100 名を数え、夫々が自分の時間の都合に合わせ自主的な活動として続けています。

日本の未来を託す小学生のために、楽しく無理のない活動を続ければ、先生やご家族に私達のボランティアへの熱意が伝わっていくことでしょう。

この学習支援は今年 4 年目を迎えます。これまでの支援実績は表の通りですが、興味をお持ちの方は、〈わ〉事務局（℡　743-8101）の道満達士、宮崎芳江までご相談ください。

学習支援活動の状況　（20 年度は 6 月現在）

	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
支援要請校	22 校	28 校	51 校	63 校
支援活動校	18 校	25 校	30 校	33 校